

カリキュラム

機構施設名： 奈良職業能力開発促進センター

実施機関名： 株式会社日本能率協会コンサルティング

A.バックオフィス	新技術活用	AI(人工知能)活用
-----------	-------	------------

コースのねらい	AI(人工知能)の概要とビジネスの現場におけるAIの具体的な活用場面等について理解し、AI活用に係る知識を習得する。
---------	--

講義内容	「基本項目」	「主な内容」	訓練時間(H)
	1 AI(人工知能)の概要	(1)DXとSociety5.0の考察 - 第4次産業革命・Society5.0などの時代の変化を解説し、DXに至る背景の理解を目指します。企業運営で避けては通れないDX(デジタル・トランスフォーメーション)や人間中心としたデジタル社会実装であるSociety5.0について説明しデジタルを活用した業務改善の必要性和AIが果たす役割について考察します。DXとAIの関係性についての理解を深めて頂く事を目的とします。 (2)AI(人工知能)とは - 人工知能の歴史と適用が広がり身近になった現状を説明。 - IoTの普及でデータ量の増加、大量のデータを瞬時に処理するコンピューターの能力向上などAIが急激に進化した背景と理由を説明し、AIの種類と技術動向を実例を見ながら解説します。 (3)機械学習・ニューラルネットワーク・ディープラーニング - AIの基礎技術となる機械学習について物体を判断する時の事例のプロセスを見ながら説明。 - 機械学習の仕組みと手法、構築に必要なスキルについて説明。 - ニューラルネットワークとディープラーニングについて、また現在活用されている事例について考察します。 (4)生成AI【デモ】 - ChatGPTに代表される生成AIのしくみと出来ることを解説・実演し、業務においての活用イメージを具体化して頂きます。 - 文章の作成にとどまらず、業務においての日報形式での報告書の作成などプロンプトを活用したデモンストレーションを行います。	3.0
	2 AIの活用事例と今後の展望	(1)AIの具体的な活用事例と業務への適応方法の説明【演習】 - 生成AIを活用した業務の事例の紹介と既に実用化されているAIサービスについて説明します。 - 参加企業の業務内容の可視化業務のどの箇所でのAI活用が可能かを全員で考えるワークショップを実施します。 【ワークショップ①】AI活用計画立案の演習 - ケーススタディを用いて業務の可視化を行います。業務可視化においてはフローチャートを作成し、具体的な業務内容・業務における課題などを浮き彫りにしていきます。 【ワークショップ②】業務における生成AI活用演習 - 具体化された課題へのアプローチとして実際に講師のChatgptを利用し課題解決方法を探索します。参加者は課題に対してのアプローチ方法についてAIに相談するためのプロンプトを作成してもらいます。ワークショップを通じて社内業務のAIへの適応方法について考察します。 (2)AI導入の課題 - AIを活用するにあたってのDX人材育成についての説明 - 社内業務効率化に向けてのAI活用と、顧客への新たな価値を創出していくためのAI活用について考察します。 (3)AIの今後の展望 - AI関連技術のロードマップ(シンギュラリティとAGIについて) - 自然言語でのロボットコントロール事例 - AIに置き換わる可能性のある職業についてグループワークを通じて考察を行う	3.0
合計時間			6.0

カリキュラム作成のポイント

・働く環境の変化や日本の現状、テクノロジーの最新動向を理解した上で、業務上の課題解決に活用できるAIについての知識習得を図ります。一方的な知識ではなく、双方向のコミュニケーションや演習を通じて、現場で実践活用できるようになるための演習を挟みます。理解および知識としての吸収をしやすくするために動画や、実際のAIのデモを使用した解説やツールの実演も行います。

・業務に活用できるツール(ChatGPT等生成AIツール)のデモを通じて、活用方法についての理解を深めてもらいます。

・受講者自身が抱えている課題とAI活用事例が紐づくように演習を実施し、AIの可能性を理解しAI利用を促すコンテンツを準備します。